

## なかなか採用ができない 介護職員

介護職員がなかなか採用できない、といわれて久しい。残念ながら、飛鳥晴山苑も例外ではない。当苑の特養には、今年3月現在で、常勤の介護職員が74名、看護師が8名（いずれも常勤換算）。計82名の看護・介護職員が配属さ

れている。入所定員152名を82名で割り算すれば1.9。入所されている方1.9人に対して1名の看護・介護職員が配置されていることになる。介護保険では、3対1以上の配置が必要だから、51名が最低基準。現状は30名ほど多いことになり、基準は大きくクリアしている。それでも、現場は火の車。質の高い介護現場にするためには、1.6対1が理想？ となれば、さらに10名

ほど介護職員を増やしたいところだが、逆に毎年10名ほどが退職してゆく。“離職率は特に高くない”といわれるものの、採用と離職の追いつき。

ここ数年、お給料もなんとか他産業並みになってきているし、仕事は楽しく、やりがいがあると自認？いやはやなんと、今春も新卒の介護職採用状況はやるせない……。



施設長 佐長史朗



新型コロナウイルスの影響でイベントの開催を自粛する3月。今年も、なんだかとてもさびしい春になってしまいました。でも、飛鳥晴山苑に隣接する「北区みんなの公園」には、一斉休校の子供たちの元気な姿が。平日にこんな賑やかな声が聞こえることは、はじめてかもしれません。感染予防のためご家族との面会ができないご利用者さんも、子供たちの元気な声に癒やされました。

## なぜ高齢者は 感染症に弱い？

新型コロナウイルスの流行で特に問題視されているのが「高齢者の重症化」です。高齢者が感染症にかかりやすいのは、若い人よりも免疫力が低下しているからで、免疫機能は60歳を超えると20代の半分以下になるといわれています。

加齢によって、免疫を主導する白血球(T細胞)が生み出される数が減り、その活動も衰えます。さらにT細胞の成長を助ける脾臓やリンパ節の機能も低下するため、T細胞の病原体への反応が弱くなってしまいます。このように、免疫機能を持つ細胞の産生が減り、免疫細胞の機能を助ける臓器が衰えると、体全体の免疫機能が低下していきます。

インフルエンザやノロウイルス、コロナウイルスなどはもちろん、尿路感染症や肺炎、結核など高齢者はさまざまな感染症に悩まされています。感染症は早く対処しないと、血液に細菌感染を起こし菌血症になったり、細菌による全身炎症反応である敗血症によって、死に至る確率が高くなります。

高齢者を感染症から守るためには、本人の予防はもちろんですが、家族や接触する人たちが感染しないことが最重要になってきます。免疫の低下は加齢だけでなく、栄養不良や睡眠不足、運動不足などからも生じます。生活習慣を整えストレスなく楽しく過ごして、免疫力をあげたいものです。



飛鳥晴山苑の開所当時からケアワーカーとして働いている村上さん。介護の仕事に就いて15年を超えるベテランだ。それでも「まだまだ毎日勉強」と謙虚に語る。「人間相手の仕事なので毎日発見だし、関わり方も人によって違います。むずかしい仕事ですよ。」

新人や後輩に向けてのアドバイスをお聞きすると、「介護の仕事って、オムツ交換、入浴介助、排泄介助ってこなすだけじゃ、つまらない仕事、作業になってしまいます。でも例えばこの人にはこんなケアをした方がいいのではと、自分が発信したことによって、何かが変わることがあるんですね、はまるというか。そんなことがやりがいに繋がるんじゃないかと感じています。」

「やめたいと思ったことは一度もないが、悩み事は日々あるという。「お酒が大好きなんです、イヤなことでも家で晩酌したら、よし、明日も」

「お酒の他にもう一つ、仕事を続けられる原動力になっているのが、1歳になる甥っ子さんらしい。「今まで、ご利用者さんにもたくさん癒やされてきましたが、子供の可愛らしさは、また別格ですね。カワイイですよー。私子供がこんなに好きだったんですね。」



● 特養・フロアーリーダー 村上亜希子さん





特養・便り



暖冬とはいえ、やはり今年の冬も寒く、利用者様はなかなか外出ができません。そこで2月上旬、みなさんに喜んでいただきたいと“握り寿司レクレーション”を開催しました。

各階に寿司職人が出張し、利用者様の目の前で握りの実演をしていただきました。その後は、お待ちかねの実食です。

「また食べたい」「目の前で握った寿司はやっぱり違う」など、日頃生ものを召し上がる機会が少ないので、大変美味しいとの声をたくさんいただきました。茶碗蒸し、味噌汁、フルーツも召し上がり、たいへん豪華な昼食になりました。沢山の笑顔を見られて職員にとっても幸せな時間になりました。

ショートステイ・便り



2月に毎年恒例の豆まきを行いました。といっても、ショートステイの豆まきは通常の豆まきとは一味違い、鬼をモチーフにした箱と豆をイメージした大きめの玉を作り、鬼の口の中にある小鬼達にボールを投げ入れて退治してもらうといったものです。単純なようで、意外に難しい！「入ったけど鬼にあたらぬ！」と、ご利用者様も大盛り上がりでした。

現在、コロナウィルス関連のニュースが続いておりますが、飛鳥晴山苑においても発生予防に向けて引き続き十分な注意を図ると共に、ショートステイのご利用者様には安全に、楽しく過ごして頂けるよう職員一同、精一杯努めていきたいと思っております。

デイサービス・便り



今回は“リハビリデイあすか”にある足裏マッサージ機をご紹介します。効果・効能としては筋肉の疲れをとり、コリをほぐします。血行の促進や疲労回復に良いといわれていて、運動不足や冷え性、血行不良、むくみなどで悩まれている方にお勧めしています。「使った直後よりも後で気持ちよくなるね」という方や「血行が良くなるせいか眠くなるわ」など評判は上々です。日本製で安心して使用することができます。

リハビリデイあすかには、その他にもいろいろな種類のトレーニングマシンを導入しています。ぜひ見学、体験お待ちしております。

リハビリデイあすか ☎03-3940-9171

一日型デイサービスはこちら⇒03-3940-9173

ケアパートナー・便り



いまや多種多様になった「デイサービス」。ケアマネとしてはご本人とご家族のニーズはもとより、立地やプログラム内容、利用時間など様々な因子で絞り込み利用していただきます。デイサービスのスタッフも、初めての利用者との関係性を築くために最大限の努力をしていますが、利用を始めてからわかる、「ご利用者同士の相性」という大きな問題が起きることも。やってみなければわからない、だからこそうまくいったときの「充実感」と、うまくいかないときの「喪失感」と背中合わせの中、日々奮闘しています。私たちも継続して通ってもらえるよう、現場の職員と知恵を絞り続けています。「まずは見学から」、その扉を開けるお手伝いをさせていただきます。

訪問看護・便り



暖冬といわれた冬も去り、色とりどりの草花たちが春の到来を知らせてくれています。訪問看護ステーション飛鳥晴山苑は、令和2年12月1日で10周年を迎えます。これもひとえに地域のみな様、多くの事業所の方々に支えて頂いているおかげと感謝致しております。

現在、スタッフは看護師7名、理学療法士2名、作業療法士1名、事務1名が在籍しています。0歳から103歳のご利用者様の在宅療養を支援させていただくために、日々努力の毎日です。

今後とも訪問看護ステーション飛鳥晴山苑をどうぞよろしくお願い申し上げます。

訪問看護ステーション飛鳥晴山苑

☎03-5980-0102

高齢者あんしんセンター・便り



飛鳥晴山苑内にオレンジカフェがオープン……

4月より、飛鳥晴山苑内「ティールームさくら」で、看護師に認知症についてや、ご高齢の方の介護、生活上の心配ごとなどの相談ができる「オレンジカフェ」がオープンします。ゆっくりとコーヒーを飲みながら、悩みごとを話してみませんか。お待ちしております。※感染症予防のため、当面の間、原則予約制とさせていただきます。

オレンジカフェきたい〜な  
in ティールームさくら

- 毎月第4土曜日 午後2時～3時30分
- 飛鳥晴山苑内「ティールームさくら」
- 参加費 100円

…… 飛鳥晴山苑高齢者あんしんセンター ……

☎03-3940-9175 (月～土 午前9時～午後6時)

